- 1 派遣期日 令和5年11月9日(木)
- 2 派遣先 学校名：宮城県気仙沼市立津谷中学校
所在地：宮城県気仙沼市本吉町津谷桜子2番地
<http://www.kesenuma.ed.jp/tsuya-cyuu/html/>
- 3 研修内容 自己研修テーマ【個別最適な学びについて】

(1) 公開授業参観及び研究協議

- ① 公開授業 1学年2組 理科「音の世界 力の世界」
 - ・Google スプレッドシートで計画確認・振り返り
 - ・単元内自由進度学習
 - ・ロイロノート等の活用
 - ・実験スペース

生徒にシラバスが配付されており、学習の見通しをもって取り組んでいる。単元の最後には「単元内自由進度学習」が設定されている。生徒自身が計画を立てて、学習内容を理解するための時間を設けている。本時はその「単元内自由進度学習」の授業である。授業で行った実験をもう一度行う生徒や授業時に撮影した動画や写真を見直して結果を確認する生徒、インターネットで情報を検索して理解を深める生徒、教科書を熟読する生徒、レポートをデータやノートで作成する生徒など、それぞれが自分で立てた計画で学習している。計画立案がしっかりできていることにより、それぞれが集中して授業に取り組むことができている。単元全体を通しての学習のため、力の世界では「ばねばかりの実験」、音の世界では「モノコードの実験」や「おんさの実験」、「その他の楽器の実験」の準備がされていた。教室とオープンスペースの廊下という広い空間を使用して行われており、廊下にも机と椅子があるため、生徒はよい環境で学んでいるが、教師の準備が非常に大変だと感じた。また、教師は1名のため、それぞれ回って声かけをしているが、安全の配慮や結果の誤解がないか疑問に思った。今回は物理実験であり、事故が起きにくい、化学実験など薬品を扱う場合は工夫改善が必要だと感じた。

実験のデータを取る際には、生徒がPCでオシロスコープのアプリを活用する工夫が見られた。他にも動画や写真を撮影したり、ロイロノートでレポートを提出したりするなど、生徒がPCを活用する場面がたくさん見られた。一方では、ノートでレポートを作成している生徒も見られた。タイピングなどに慣れていない生徒は、ノートで書いたものをPCで写真撮影して、ロイロノートで提出していた。大部分の生徒がPCを上手に活用していて効率良く学習を進めることができている。授業の振り返りは、Google スプレッドシートに記入していた。ワークシートだと管理や返却の負担があるので、データで管理することはよいと感じた。

授業全体を通して「個別最適な学び」が意識されていると強く感じた。そのためにはPCの活用は必須である。タイピング技術や動画・写真の撮影、ロイロノートによるレポート提出、Google スプレッドシートの活用など、生徒にPCを使う場をたくさん設定することで慣れさせることが大切である。また、「協働的な学び」は、データを生徒間で共有することで効率的に実践できるため、より深い学びにするために本校でもPCを活用する場を増やしていきたい。

② 研究協議 分科会：理科

- ・シラバスの配付
- ・Google スプレッドシートやロイロノートの活用
- ・実験準備や片付けについて
- ・チェックシートやチャレンジシートの活用
- ・単元内自由進度学習

生徒がシラバスを把握することで、見通しをもった学習ができる。目的意識があるため、集中して授業に取り組む生徒の様子がたくさん見られた。そして、Google スプレッドシートやロイロノートで授業の振り返りや学習履歴の蓄積を行い、生徒自身で思考の整理や学習の調整ができる環境が整っている。また、ロイロノートで提出を管理することで管理や返却の負担が小さくてよい。実験の準備や片付けは非常に負担が大きい、生徒の個別最適な学びになっている。チェックシートやチャレンジシートは、学習の定着を確かめたり、発展問題に挑戦したりすることができるようにロイロノートの資料箱に準備されていて便利である。単元内自由進度学習は、生徒一人一人が自分のペースで学びを進めていくことができ、よい。しかし、生徒それぞれが課題設定をして取り組むため、テストの結果に結びつけることが難しいことやそれぞれの計画や間違った考察に対する指導の負担が大きいことが課題である。

(2) 講演会及び全体講評

(講演会：東北学院大学 教授 稲垣 忠)

(全体講評：宮城県教育庁義務教育課 副参事 佐藤 浩一)

「個別最適な学びを通じた授業観の変革に向けて」

- ・ICTの活用について
- ・協働的な学びとの一体的な充実

4 感想

今回の視察で「個別最適な学び」の実践例を見ることができ大きな学びとなった。研究主題「自ら学び、考え、表現できる生徒の育成 ～生徒に委ね支える授業づくりを通して～」の3年次であり、実践の積み重ねの成果と課題を知ることで今後の授業に活かせる学びとなったことは、以下の通りである。まず、1人1台端末を活用した授業である。ロイロノートやGoogle Workspaceに学習履歴を保存することで、個別の評価や分析に役立てることができる。本校では、ロイロノートを導入していないため、Microsoft Teams等を活用してレポート等の管理をしていきたい。次に、単元のシラバスを活用し、生徒に見通しをもたせて自己調整できるようにしたり、課題解決に向けた学習形態を生徒が選択できるようにしたりすることである。これにより、目的意識をもって授業に取り組むことができ、自己決定による充実感がある。本校でもシラバスを活用して単元ごとに見通しをもてるよう工夫をしていきたい。そして、自由進度学習である。単元の終盤に生徒それぞれが自分で計画を立てて学ぶことができる。アンケートの結果では「自分の進度で学習を進められてよい」「先生に質問できる時間が多くなった」などの肯定的な回答がある一方で「一斉授業より大変」「先生から最適解をすぐに教えてほしい」などの否定的な回答もあった。しかし、大変なことを自ら乗り越える力や自分で答えを見つける力は、どちらも社会に出たときに必要な力である。テストでよい点数を取る力を身に付けさせるためには、教員が最適解を一斉授業で教える方が効率的であると思うが、生徒に身に付けさせたい力は両方である。バランス良くどちらの授業方法も工夫して行き、様々な力を生徒に身に付けさせたい。大切なのは、教員も生徒もどのような目標をもって取り組むのか共通理解して行うことである。教員が生徒にそれを伝えることが一番大切であり、共によりよい授業にしていくことができるよう改善していきたい。

結びとして、このような機会をいただけたことに感謝して今後の教育活動に励みたい。そして、日立市や本校の教育に還元できるよう情報を共有していきたい。